令和８年度　　八幡工業高等学校　学校評価

本年度の重点目標

・社会の変化に対応できる、ものづくりの技能や技術の修得を目指し、授業の充実をはかる。
・将来にわたり環境に配慮した創造的な思考力、いじめのない将来に続く仲間づくりを目指す。
・地域に貢献し信頼され、開かれた学校づくりに努める。

領　域	重　点　評　価　項　目	中間評価(10月)	総合評価（３月）	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1　学校経営	全職員が教育目標を共有し、相互理解と信頼に基づき教育活動を推進する。	B		
	工業技術・技能の習得を目指し、技術者・技能者として相応しい資質を身につけさせる。	A		
2　学習指導	シラバスに基づき、基礎的・基本的な知識・技能の習得と学力向上に努める。	A		
	生徒の学ぶ意欲を高める、家庭学習の定着と魅力ある授業の改善や指導の工夫に努める。	B		
3　生徒指導	基本的な生活習慣の確立を目指すとともに校内美化の推進に努める。	A		
	生徒と教員、学校と家庭の信頼関係に根ざした指導を行うとともに、関係機関との連携に努める。	A		
	生徒が安心して学校生活を送れるよう、いじめの未然防止や早期発見、交通事故防止等に努める。	A		
4　進路指導	望ましい勤労観・職業観を育成し、目的意識の早期確立のため、進路の手引きの充実および相談体制の整備に努める。	A		
	企業や大学との連携を密にし、求人など進路先の確保に努める。	A		
5　特別活動等	ホームルーム、生徒会、部活動など、生徒の実践的活動を通して人格形成を目指し、ＬＨＲや行事を適切に行う。	B		
	生徒会を中心に、生徒による計画、運営ができるように指導する。	B		
6　学校図書館	図書館の蔵書と環境の整備を図り、資料を有効に活用している。	A		
	図書館だより等を通じて、読書に関する情報の発信に努めている。	A		
7　保健・安全指導	生徒の健康管理と事故、病気、怪我の予防ならびにその対応を適切に行う。	A		
	避難訓練などを実施し防災に対する意識高揚に努める。	A		
8　人権教育	互いの人権を尊重し、いじめや差別のない、生き生きとしたクラスや学校づくりに努める。	A		
	ＬＨＲなどを活用し、人権意識の高揚にむけて取り組む。	B		
9　環境教育	教科指導などで地域資源の活用や自然体験活動を取り入れ、自然や地域と共生する力を育成する。	B		
	日常の清掃活動を通して節電、節水、ゴミの減量など環境保全活動に取り組む。	B		
10　事務・管理	環境対応製品の購入を積極的に行う。	B		
	校地内の施設・設備の管理や環境整備を推進している。	A		
11　その他 学校の取組	各種指定研究の推進に努め、学校経営に活かす。	B		
	小・中学生をはじめ、地域への学校開放を進め、評価を高める取組を行う。	A		

（注）・評価表の見方：　６月　学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
１０月　中間評価（自己評価）の公表（８月までの教育活動に対する中間評価）ＡＢＣＤの４段階評価で示す。
３月　総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）ＡＢＣＤの４段階で示す。
・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
・ＡＢＣＤの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はＡ、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はＢ、
あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はＣ、達成できていない場合（達成度40%未満）はＤとする。

学校のＵＲＬ：　https://www.hachikou-h.shiga-ec.ed.jp/